

ヤウニトテ急ガセ給ヒケレドモ御座船ハ櫓數ト云水手ト云ハヤ秀元ノ御舟ヨリ十町計先立
テケリ、

〔名物六帖器財二〕厨船續見聞近錄全網諸船不得。動火惟一。惟厨船造飯以給諸船。

〔和漢船用集舟名數〕江湖川船。厨船。船中にても火をみだりにすることを禁ず。是臺所御座と呼
者。煮焼する賄舟也。

〔續武將感狀記〕備前宰相秀家ノ從士馬場與平次實職朝鮮陣ノ時山寺四郎兵衛德藏市兵衛祇園
久次中島藤三斧田九右衛門湯原治右衛門七人同船ニ乗テ長門ノ門司關ニ至テ渡海ノ順風ヲ
待陸ニ上テ見物スル處ニ秀家ノ臺所船ト秀家ノ柄臣延原内藏允ガ船ト上碇下碇ヲ論ジテ雙
方百人計爭鬪ニ及ベリ、

〔西鶴名殘之友四〕それぐの名付親

何や彼や世上の咄しするうちに臺所船より生酔の九八といふ太鼓持罷出て、略下

〔和漢船用集舟名數〕江湖川船。用船。御座船に付。厠船也。是を呼で用船と名付、

〔出雲風土記意字郡〕所以號意字者國引坐八束水臣津野命詔八雲立出雲國者狹布之稚國在哉初
國小所作故將作縫詔而考衾志羅紀乃三崎矣國之餘有耶見者國之餘有詔而童女曾鋸所取而大
魚之支太衝別而波多須々支穗振別而三自之綱打挂而霜黑葛閉々那々爾河船之毛々曾々呂々
爾國々來々引來縫國者自去豆乃打絶而八穗爾支豆支乃御埼也、

〔延喜式三十九〕川船一艘長丈。三在與等津、

右漕奈良奈癸等園供御雜菜、

〔枕草子二〕心ゆくもの川舟のくだりさま

〔後拾遺和歌集十七〕大井にまかりて舟にのり侍けるによめる、

大江匡衡朝臣